

ふりがな	なかの たつや		
氏名	中野 竜也		
学校	愛知県立愛知工業高等学校	学年	2年

今日では、様々な場面、分野において電気が利用されている。家電製品や工場の機械を動かしたり、暗闇を明るく照らしたり、ネットワークを構築したり長い歴史の中で研究や開発が繰り返され、電気は人々の求める形で多様に利用されてきた。私たちはあたり前のように電気を使っているが、その便利さは幾層もの研究の上にある。

便利である反面、電気には危険性が備わっている。電柱を経由して街中に電線が張り巡らされ、すべての建物に電気が通るようにされているが、これには電気工事をする人が不可欠である。電気工事中の感電、落下等による死亡事故も少なくない。特別工事をしない一般家庭でも、事故の起こる可能性は否定できない。いわゆるたこ足配線や、コンセント周辺にほこりがたまっていたりすると、火事の原因になりかねない。通信の視点から見ても危険はある。配線や値を間違えると、ノイズやひずみが発生したり、途切れたりして正しく通信が行えないなど、物理的ではないが被害が発生してしまう。使える用途が増えるほど、危険性も増すのが現状である。

では使わないほうが良いのかというと、そうではない。私たちの生活を豊かにする上で、電気はやはり必要不可欠なものである。大切なのは、正しく使うこと、また誤ったときにどう対処するか。あるいはそのための知識を身につけることだろう。故人の研究は、何も法則や仕組みだけを生み出してきたわけではない。それに関するメリットやデメリットを把握し、誤りへの正しい対処が行えてこそ、電気を扱うことができているといえるのだろう。豊かにする研究があれば、防ぐ研究もある。研究成果が後世に活かされなければ、故人も涙を流すであろう。

便利さと危険さの両面を知った上で扱うことが、真の豊かさに繋がると私は考える。